

本当の教えに出遇うことは「生きる」ことから、「生かされる」ことへの大転換

無碍の一道 第19号

発行:2012年9月8日
発行者:淨土真宗本願寺派 長尾山 天龍寺
〒739-0147 副住職 天野英昭
東広島市八本松西6丁目10番1号
電話・FAX 082-428-0160・082-428-1360

秋季彼岸法座

日 時 9月29日（土） 9:00～15:00頃

朝席 9:00～11:30 暮席 13:00～15:00

ご講師 加藤 一英 師（豊田郡大崎上島 浄泉寺ご住職）



第13回歎異抄輪読会

日 時 9月21日（金） 19:00～20:30頃

ご講師 松田正典先生（広島大学名誉教授）

費 用 500円

参加者 天龍寺の門信徒の方のみならず、どなたでも参加は自由です。

お知らせ

★第3回コーラス練習

9月13日（木）9:30～11:00

天龍寺佛教婦人会のみなさまを中心にコーラスを始めます。会員の方のみならず、どなたでも参加は自由です。たくさんの皆様のご参加をお待ちしております。

曲目：「そんなときわたしは口ずさむ（讃仏歌）」「花は咲く」「ふるさと」など

★天龍寺佛教壯年会 月例会

9月30日（日）19:00～20:30

天龍寺墓苑合同参拝のお礼

先月8月12日（日）に行われました磯松天龍寺墓苑合同参拝に際しまして、一年で一番暑い時期にも関わりませず、多数のご出席を賜り誠にありがとうございました。本来ならば寺報と同封してお礼の書面をお出しするのが筋だと思いますが、来られた全ての方のお名前が、残念ながら当山では、把握できませんでした。よってこの様に寺報の一部分をお借りしてお礼を申し上げたしだいです。ご理解等をいただきますことお願いを申しあげます。

また、来年も多くの方とのご縁をいただければ幸いかと存じます。



感謝に堪えません。

天龍寺の庫裡の玄関が、仏教壯年会のみなさまのご尽力によりリフォームされました。当初は玄関の天井・玄関口の履物入れの上の部分等の修繕をしていただく予定でしたが、天井等を直しますと、壁も新しくしよう等のご意見をいただき、玄関の全面リフォームとなりました。本当に感謝に堪えません。

ある日玄関の壁を直していただいているときに、ある業者の方が来られ、玄関の様子を見られ「どうされたんですか。」と聞かれました。その問い合わせに答えて「天龍寺に関係をいただいている方に直していただいている」と申し上げました。するとその業者の方がこの様に言われました。「絆の薄い中で、素晴らしい事ですね」と言われ、それに対して、栄養ドリンクを無償で下さいました。

いつも申すことですが、出会いとは本当に不思議な物を感じます。仮に私が天龍寺に生を受けなければ、このようなありがたいご縁をいただくこともなかったと思います。

少し話は展開しすぎるかもしれません、現在の社会状況は、資本主義経済が行きすぎていると感じることがあります。学校に勤務していた時も、よく生徒がこの様な事を言っていました。「先生これをしたら得になる？」全てが計算の中での生活のような気がする時がありました。綺麗事になりますが、計算・打算の中での人間関係は、得にならない物がなくなれば、それで縁が終わるかもしれません。絆・絆と昨今呼ばれていますが、計算を超えた所に本当の絆があるのかも知れません。

謙遜ではなく、私は機械等の事はまったく分かりません。だから、みなさまが一生懸命になってやって下さっている中で、ごみ拾いくらいしか出来ません。その様な中で、昼食時にはみなさまと一緒に食事をいただくこともありました。庭でみなさまと笑いながら食事をいただいていると、あらためて大きな仏縁の中でのご縁に感謝し、絆ということもおこがましいのですが、ただただありがたいの一言でした。

最後に、この度の改修工事にあたり兵庫様・中島様・玉田様には多大なご尽力をいただきましたこと書面をお借りしてお礼を申し上げます。さらに中島様には親子二代に渡ってご尽力をいたしましたこと重ねてお礼を申し上げます。

○○様と小鳥

私が毎月お参りをさせていただいているお宅に、小鳥を飼っておられる○○様がいらっしゃいます。ご主人様が亡くなられ、お子様も遠方で働かれているために、小鳥と一緒に生活をされています。その小鳥は、その○○様の気持ちが通じているのか、先般この様な事を言わっていました。「花子ちゃん（小鳥の名前）は、私が好きな日曜日にあるNHK のど自慢が始まる鐘の音が聴こえると『ピーピー』と鳴いて、私を呼ぶんですよ。」と言われていました。また、お邪魔するとよく○○様の声・足音等に反応している姿を拝見させていただくことがあります。本当にけなげな姿だと思います。

今日（9月8日）の新聞に、ある大学生が少女をカバンの中に入れていることが発覚し逮捕されたという記事が載っていました。親が子供を虐待し死亡させた等、悲惨な記事が毎日のように記載されていますが、小鳥のそのけなげな姿に心が温かくなりました。

